

# 小規模橋梁建設計画

## 実施地域

ジョホール、サイエレ、タノドゥマセ、フム、エモ、ドゥロ、ンウィネ



## 1. プロジェクト要請の背景

ガーナの道路網のうち約60%を地方道路が占めているが、これらの地方道路に架かる橋梁の大部分は木橋であり、老朽化が早いいため、崩壊・流出したものが多かった。現存する橋でも、耐荷性が低いため車両の通行が危険であるなど種々の問題を抱えており、主要農産物であるカカオや木材などの消費地への輸送に支障を来し、地方経済の活性化の妨げの一因となっていた。

このような背景のもと、ガーナ政府は我が国に対し、地方道路網の整備を通じ地方経済を活性化させることを目的として、地方の小規模橋梁建設に関する無償資金協力を要請した。

## 2. プロジェクトの概要

### (1) 協力期間

1996年度

### (2) 援助形態

無償資金協力

### (3) 相手側実施機関

道路・運輸省地方道路局(DFR)

### (4) 協力の内容

#### 1) 上位目標

ガーナの地方経済の活性化に寄与する。

#### 2) プロジェクト目標

ガーナにおける地方道路網を整備する。

#### 3) 成果

a) 7つの小規模橋梁を建設する。

b) 接続道路を建設する。

c) 橋梁を適切に維持管理できる体制を整える。

#### 4) 投入

日本側

E / N 供与限度額 9.94 億円

ガーナ側

接続道路建設

ローカルコスト

## 3. 調査団構成

JICA ガーナ事務所

(現地コンサルタント: Quans Inter-Continental Associates に委託)

## 4. 調査団派遣期間(調査実施時期)

1998年8月5日 ~ 1998年10月26日

## 5. 評価結果

### (1) 効率性

本プロジェクトでは、ガーナの既存の技術が用いられ、資機材も可能な限り現地調達されており、効率性は高い。計画から建設完了まで、ガーナ及び日本側の各関係者間の相互協力により円滑に実施され、計画どおりの日程で完了した。ガーナ側の負担工事である各橋梁への接続道路の建設も、1か所を除き完了している。

なお、橋梁の建設工事中には、迂回路を設けるとともに資機材搬送用道路を設置するなど、交通への影響にも配慮がなされた。

### (2) 目標達成度

本プロジェクトで建設された7か所の小規模橋梁のうち、現時点ではガーナ側による接続道路の建設工事が未完な1つの橋は開通していないものの、その他

の6か所の橋はすべて開通し、利用されている<sup>1)</sup>。橋梁の開通により、以前は河川を船で渡っていたため雨季には通行不可能であった所が年間を通じて通行できるようになり、市場や市街へのアクセスは大幅に改善された。市場が開設される日には通行車両数が計画時の予測を超える橋もあり、本プロジェクトの目標は達成されつつある。

### (3) 効果

橋の完成によって市場への運搬が容易になったため、農産物の収穫後の損失が5～20%減少し、また収穫物を新鮮なまま市場に提供できるようになったため、より高い価格で販売できるようになった。これらの結果、耕作面積が橋の完成前に比べ10～15%拡大した地区もあり、村に買付けに来る仲買人も増加している。

また、橋の完成によって病院へのアクセスが可能になった地区が2か所あり、そのような地区では病院の受診者数の増加も見られる。

このように、橋梁完成後まだ5か月しか経過していないものの、橋梁近くの住民は生活水準の向上を実感している。

### (4) 計画の妥当性

河川により寸断されていた農村の道路網の連結は、ガーナ政府の政策に整合性を有していることに加え、地域住民のニーズにも合致していることから、妥当性は高い。

### (5) 自立発展性

DFRには保守管理のために独自の予算があり、また優秀な技術職員を有していることから、建設された橋梁は今後DFRによって定期的に保守管理されていくと思われる。



橋ができるまでは、農民はボートで川を渡らなければならなかった



整備された橋梁。維持管理状態も良い

注1) 2000年6月現在、本プロジェクトで建設された橋はすべて開通し、利用されている。